

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

The delivery of a placenta/fetus with high gonadal steroid production contributes to postpartum depressive symptoms

和文タイトル:

性ステロイドを高く産生する胎盤/胎児の娩出は産後うつ症状に寄与する

ユニットセンター(UC)等名:

宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Depression and Anxiety

年: 2021

月: Jan

巻:

頁:

筆頭著者名:

菊地紗耶

所属UC名:

宮城ユニットセンター

目的:

周産期における性ホルモンの変動が周産期の抑うつ症状と関連することが想定されているが、その背景となるメカニズムは明らかではない。本研究では、母体血漿中性ホルモン及び臍帯血中性ホルモンを測定し、周産期の抑うつ症状との関連の有無を明らかにすることを目的とした。

方法:

204例を対象とし、妊娠初期、中期、産直後の血漿中の性ホルモン(プロゲステロン、エストラジオール、テストステロン)および臍帯血中性ホルモンを測定した。妊娠中の精神的健康を評価するためにK6を施行し、産後1ヶ月時のうつ症状を評価するためにEPDSを施行した。性ホルモンと各種心理尺度の関連を検討した。

結果:

産後1ヶ月にうつ症状を有する母親から出生した児の臍帯血中の性ホルモン(プロゲステロン、エストラジオール、テストステロン)はいずれも産後うつ症状がない母親から出生した児に比べ有意に高かった($p < 0.01$, $p < 0.05$ and $p < 0.05$)。うつ症状を有する母親は、産直後の血漿中プロゲステロンが有意に低く、妊娠中期から産直後にかけての性ホルモンの低下率が有意に高かった($p < 0.01$)。

考察:(研究の限界を含める)

胎盤/胎児の娩出に伴い、妊娠中期から産直後にかけて、母体血漿中のプロゲステロン値が急速に低下し、その低下率が大きいことが、産後1ヶ月における抑うつ症状の出現を予測すると考えられた。妊娠中期から産直後にかけてのエストラジオール、テストステロンの低下率と産後1ヶ月における抑うつ症状の関連は認められず、プロゲステロンの関与が重要であると考えられた。本研究の限界は、抑うつ症状を自己記入式質問票でのみ行っていること、サンプルサイズが少ないことである。

結論:

性ホルモンを高く産生する胎盤/胎児の娩出が、産後の血漿中性ホルモンの変動をもたらし、その性ホルモンの変動が大きいことが、産後うつ症状に寄与することが示唆された。